

主体的なかかわり合いを育むコミュニケーション手段の活用 ～聴覚障がい教育におけるデジタル無線補聴システムと音声認識アプリを用いた実践～

山形県立山形聾学校

【実践の目的】

自分に必要な情報を、自ら受け取る手段の確立

※これまで情報を伝える側に情報の内容を依存していましたが、この実践を通して、情報を受け取る側であった聴覚に障がいのある幼児児童生徒が、必要な情報を自分で取得できるようになり得ます。

【実践の概要】



【実践のポイント】

1. **校内でも校外でも**、よりはっきりとした音声情報を聴き取ることができるシステムを採用しています。

※混信の起きない2.4GHz帯デジタル無線方式の補聴システム(デジタル無線補聴システム)です。

2. 文字情報を音声情報と**同時にリアルタイム**で読むことができます。

※デジタル無線補聴システムの送信機と、タブレットPC内の音声認識アプリを連携します。

3. 本校を卒業した後も、**社会で活用**することができます。

※本実践は、公益財団法人パナソニック教育財団より助成を受けて取り組んでいます。

平成28年8月発行
山形県立山形聾学校
自立活動部